



東日本大震災
八戸市の記録

第 7 章

放射性物質への対応



7-1 放射線量測定

1 水産物

平成23年3月17日、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故により、周辺環境から通常よりも高い放射能が検出されたことを受け、厚生労働省では、当面の間、原子力安全委員会により示された「飲食物摂取制限に関する指標」を暫定規制値とし、これを上回る食品については食品衛生法第6条第2号に当たるとして食用に供されることのないよう自治体に対して通知した。水産物の暫定規制値は、放射性セシウムが500Bq/kg、放射性ヨウ素が2,000Bq/kgとなっていた。

また、水産庁は平成23年5月6日に「水産物の放射性物質検査に関する基本方針」を示し、沿岸性の魚種については県が、広域回遊性の魚種については国、県及び関係団体が協力して、放射性物質検査を実施することとした。

これらを受け、青森県では放射性物質検査機器を整備し、平成23年7月26日から、農林水産物のモニタリング調査を開始し、検査結果をホームページ等で公表している。市においても、国、県等が公表した検査結果のうち、八戸港で水揚げされた水産物について、ホームページで公表している。平成24年3月31日までの検査では、放射性物質は検出されていない、又は検出されても暫定規制値に対して非常に微量であるとの結果となっていた。

平成24年4月1日、厚生労働省はより一層の食品の安全と安心を確保するため、食品中の放射性物質の新たな基準を施行した。水産物は一般食品に区分され、基準値は放射性セシウム100Bq/kgとなった。

平成24年6月19日、県のモニタリング調査において、八戸港に水揚げされたマダラから基準値を超える116Bq/kgの放射性セシウムが検出され、県から青森県太平洋海域のマダラについて、漁協等に対して出荷自粛の要請がなされた。

この出荷自粛を受けて、同日水揚げされたマダラの処理や東京電力株式会社への損害賠償請求等の問題が生じたことから、今後の放射能汚染被害解決に当たるため、水産関係者及び行政による「八戸港放射性物質対策協議会」が設立された。

平成24年8月9日、再度マダラから基準値を超える放射性セシウムが検出され、8月27日に国から県に対して出荷制限が指示された。これを受け、市では県のモニタリング調査を補完し、本市水産物の安全性の確認と基準値を超えた水産物の流通防止のため、平成24年12月1日から市場での販売前の自主検査を実施している。

■【参考】食品衛生法で定められている食品中の放射性物質の基準値

平成24年4月1日～

食 品 群	基準値（放射性セシウム134とセシウム137の合計（Bq/kg））
一 般 食 品	100
乳 児 用 食 品	50
牛 乳	50
飲 料 水	10

■ 食品衛生法で定められている食品中の放射性物質の暫定規制値（平成23年度）

種類	放射性ヨウ素（Bq/kg）	放射性セシウム（Bq/kg）
牛乳・乳製品	300	200
穀類、野菜類（根菜類、芋類）、鶏卵	規制値なし	500
野菜類（根菜類、芋類を除く）、魚介類	2,000	500

2 農産物

放射性物質モニタリング調査(農産物等)

農産物についても水産物と同様に、青森県が、県産農産物の安全性をしっかりと示し、信頼を維持・確保していくため、平成23年7月26日から放射性物質検査を行い、市町村は農協等の生産団体と連携し試料提供者の選定や試料採取の日程調整を行っている。

調査結果は、青森県のホームページで公表するとともに、八戸市関係分については、八戸市のホームページにおいても公表している。

モニタリング調査や農協等が行っている自主検査にて、異常値(基準値の50%以上の値)が検出された場合、ほ場、市町村内の地域、生産ロット単位での「自主的な出荷自粛」となり、その後公的機関により実施される精密検査において、基準値を超過した場合、市町村又は旧市町村単位で出荷者に対して県が「出荷自粛」を要請する。

農産物の放射性物質モニタリング調査品目

平成23年度実績：水稲(玄米、稲体、わら)、小麦、大豆、そば、だいこん、こかぶ、にんじん、ごぼう、ばれいしょ、ながいも、アピオス、キャベツ、ほうれんそう、ブロッコリー、レタス、ねぎ、にんにく、せり、きゅうり、かぼちゃ、トマト、ピーマン、スイートコーン、えだまめ、メロン、すいか、いちご、りんご、なし、もも、ぶどう、カシス、プルーン、食用菊

平成23年度結果：上記品目について調査し、その全てから放射性物質は確認されず。

平成24年度計画：水稲(稲体、玄米、わら)、小麦、大豆、そば、ながいも、つくねいも、にんにく、ごぼう、だいこん、にんじん、トマト、ミニトマト、キャベツ、きゅうり、ねぎ、ばれいしょ、ピーマン、レタス、すいか、メロン、かぼちゃ、いちご、さやいんげん、やまうど、食用菊、ほうれんそう、ブロッコリー、アスパラガス、こかぶ、えだまめ、スイートコーン、アピオス、オータムポエム、たらの芽、小松菜、壬生菜、りんご、ぶどう、なし、もも、サクランボ、カシス、ブルーベリー、プルーン、プラム、ウメ

放射性物質モニタリング調査品目<畜産物>

平成23年度実績：原乳、鶏卵

平成23年度結果：上記品目について調査し、その全てから放射性物質は確認されず。

平成24年度計画：原乳、鶏卵

放射性物質モニタリング調査品目<林産物>

平成23年度実績：原木しいたけ

平成23年度結果：上記品目について調査し、放射性物質は確認されず。

平成24年度計画：原木しいたけ、菌床しいたけ、菌床なめこ他

放射性物質モニタリング調査品目<飼料>

平成23年度実績：サイレージ用とうもろこし

平成23年度結果：上記品目について調査し、放射性物質は確認されず。

平成24年度計画：サイレージ用とうもろこし、牧草、稲ホールクroppサイレージ

3 畜産物

青森県では、農林水産物の放射性物質モニタリング調査とは別に、県内に出荷された全ての県産牛の放射性物質検査を実施している。

検査結果は、青森県のホームページで公表するとともに、八戸市関係分については、八戸市のホームペー

ジでも公表している。

検査結果が50Bq/kgを超えた場合は、精密検査を実施し、その結果が100Bq/kgを超えた場合は対象枝肉の出荷が自粛となる。

平成23年度結果：県内に出荷された全ての県産牛から放射性物質は確認されず。

4 学校給食用食材

学校給食用食材の放射性物質検査については、食材に対する放射性物質の不安を解消し、より安全・安心な学校給食を提供するため、平成24年8月から「青森県学校給食検査設備整備事業」による学校給食用食材の事前検査と、実際に児童生徒が食べる状態での安全性を確認するため、平成24年12月から「青森県学校給食モニタリング事業」による給食まるごとの検査を実施している。

検査結果は、青森県のホームページ及び八戸市関係分については八戸市のホームページで公表している。

検査の結果、50Bq/kg以上の値が検出された場合は、その食材の使用を中止し、青森県教育委員会が精密検査を実施する。

平成25年1月末現在、全ての検体において、基準値以上の放射性物質は確認されていない。

5 公園土壌

福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の拡散を危惧する市民からの声を受け、八戸市でも、市内の放射性物質分布状況を把握する目的で、市内15公園における土壌中の放射性物質濃度の分析を行った。分析を行った公園の一覧及び結果は別表のとおりである。地点選定については、市内全域に分布する規模の大きい公園を中心に選定している。

平成23年度は2月2日～6日に測定を実施し、是川中央公園とちぐさ公園で放射性セシウム134及び放射性セシウム137が検出された。これを受けて、2月25日に同2公園で地点数を増やし、追加調査を実施したところ、是川中央公園で微量の放射性セシウム137が検出された。以上の結果について、当市の技術アドバイザーに助言を求めたところ、放射性セシウム134(半減期2年半)が検出されていることから、福島第一原子力発電所の事故の影響があったと考えられるが、検出された結果はいずれもごく微量であり、人体に影響を及ぼすような数値ではないため、公園利用には問題ないと考えられるとのことだった。

平成24年度は6月26日～28日及び10月23日～24日に昨年度と同じ地点で測定を実施し、全地点で不検出となった。

■ 平成23年度公園土壌における放射性物質濃度分析結果一覧

No.	地点名	採取日	放射性物質濃度(湿試料)(Bq/kg)		空間放射線量率(μSv/h)	
			セシウム134	セシウム137	地上5cm	地上100cm
1	新井田公園	H24.2.3	不検出 (8.5)	不検出 (7.6)	0.03	0.03
2	ちぐさ公園	H24.2.3	不検出 (8.6)	7.7 (6.4)	0.04	0.03
3	是川中央公園	H24.2.2	7.7 (7.6)	14 (5.3)	0.02	0.03
4	長根公園	H24.2.3	不検出 (8.0)	不検出 (8.2)	0.03	0.03
5	多賀台中央公園	H24.2.2	不検出 (7.2)	不検出 (9.3)	0.03	0.03
6	八太郎ヶ丘公園	H24.2.2	不検出 (6.9)	不検出 (7.6)	0.02	0.02
7	白山台公園	H24.2.3	不検出 (6.7)	不検出 (8.7)	0.02	0.02
8	類家中央5号公園	H24.2.3	不検出 (7.5)	不検出 (9.4)	0.06	0.04
9	南部山健康運動公園	H24.2.2	不検出 (9.6)	不検出 (5.6)	0.03	0.03
10	湊第2号公園	H24.2.4	不検出 (8.7)	不検出 (9.2)	0.03	0.03
11	日の出公園	H24.2.4	不検出 (7.4)	不検出 (7.0)	0.03	0.03
12	南郷カッコーの森エコーランド	H24.2.6	不検出 (9.6)	不検出 (6.0)	0.03	0.03
13	東運動公園	H24.2.4	不検出 (9.8)	不検出 (9.0)	0.02	0.02
14	湊高台五丁目公園	H24.2.4	不検出 (9.4)	不検出 (9.3)	0.03	0.03
15	岬台中央公園	H24.2.4	不検出 (6.9)	不検出 (10)	0.03	0.03

()内の値は検出下限値。

- ・不検出とは検出下限値に満たないことを表す。
- ・土壌採取方法：中心付近地点を採取地点とし、四方5m程度5地点を同量採取、混合した試料を1試料とした。
- ・測定方法：ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー
- ・空間放射線量率測定器：PA-1000 Radi(HORIBA製)

■ 追加調査地点結果一覧

地点名	地点	採取日	放射性物質濃度(湿試料)(Bq/kg)		空間放射線量率(μSv/h)	
			セシウム134	セシウム137	地上5cm	地上100cm
ちぐさ公園	1	H24.2.25	不検出 (10)	不検出 (9.0)	0.03	0.03
	2	H24.2.25	不検出 (5.9)	不検出 (9.4)		
	3	H24.2.25	不検出 (10)	不検出 (9.5)		
	4	H24.2.25	不検出 (5.9)	不検出 (8.2)		
是川中央公園	1	H24.2.25	不検出 (10)	不検出 (9.2)	0.03	0.03
	2	H24.2.25	不検出 (10)	不検出 (9.9)		
	3	H24.2.25	不検出 (10)	9.1 (8.0)		
	4	H24.2.25	不検出 (9.0)	不検出 (8.2)		

()内の値は検出下限値。

- ・不検出とは検出下限値に満たないことを表す。
- ・土壌採取地点：前回採取地点を中心に公園内四方4地点とし、土壌採取方法は同様とした。
- ・測定方法：ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー
- ・空間放射線量率測定器：PA-1000 Radi(HORIBA製)

6 空間放射線量

福島第一原子力発電所の事故以降、市民の放射線に対する関心は高まっており、特に子どもが生活する環境における不安の声が多く寄せられていたことから、市内公園、小・中学校、幼稚園、保育園について市による空間放射線量の測定を開始した。測定器については、さくら野百貨店からの寄附を受け、市で空間放射線量測定器を5台購入し、実施した。

平成23年10月に市内の43公園で測定を行ったほか、11月以降、小・中学校、幼稚園、保育園でも測定を行い、平成24年1月末までに全施設での測定が完了した。その結果、全地点で問題となるような高い値は検出されず、事故以前の青森県内の測定結果の最高値よりも低い値であることが確認された。

平成24年度は市内公園について、昨年度と同地点で測定を継続して行っている。結果は、昨年度の結果と同様であり安全を確認している。

平成23年度公園等空間放射線量率測定結果一覧

■ 保育所・幼稚園

認可保育所73か所と、市内幼稚園24園全てについて測定を実施した。

[単位：マイクロシーベルト/時間(μSv/h)]

測定日	調査地区	地点数	測定結果		市庁舎前
			園庭	昇降口前	
H23.11.14 ～ H24.1.25	(1) 白銀・美保野	11か所	0.03～0.05	0.04～0.06	0.02～0.05
	(2) 鮫・南浜	5か所	0.02～0.04	0.03～0.05	
	(3) 湊	7か所	0.03～0.04	0.03～0.07	
	(4) 柏崎・小中野	9か所	0.03～0.05	0.03～0.06	
	(5) 吹上・長者	13か所	0.03～0.05	0.04～0.07	

測定日	調査地区	地点数	測定結果		市庁舎前
			園庭	昇降口前	
H23.11.14 ～ H24.1.25	(6) 下長	7か所	0.03～0.06	0.03～0.06	0.02～0.05
	(7) 上長・豊崎・館	8か所	0.03～0.04	0.03～0.06	
	(8) 三八城・江陽	10か所	0.03～0.04	0.03～0.06	
	(9) 大館・是川	9か所	0.03～0.06	0.03～0.04	
	(10) 市川	6か所	0.02～0.04	0.03～0.05	
	(11) 根城	10か所	0.03～0.05	0.03～0.06	
	(12) 南郷区	2か所	0.03～0.04	0.04～0.05	

数値：最小値～最大値の測定範囲

測定機器：PA-1000 Radi (HORIBA製)

※空間放射線量率の測定は、自然放射線、人口放射線の区別なく測定され、測定時の気象条件や、地表面の状況(土、砂、コンクリート、ブロック等)により変動する。

■ 小学校・中学校

市内小学校47校と、市内中学校26校全てについて測定を実施した。

[単位：マイクロシーベルト/時間($\mu\text{Sv/h}$)]

測定日	調査地区	地点数	測定結果		市庁舎前
			グラウンド	昇降口前	
H23.11.14 ～ H24.1.25	(1) 白銀・美保野	8か所	0.03	0.05～0.07	0.02～0.05
	(2) 鮫・南浜	7か所	0.03～0.05	0.04～0.07	
	(3) 湊	4か所	0.03～0.04	0.05～0.07	
	(4) 柏崎・小中野	4か所	0.02～0.05	0.04～0.06	
	(5) 吹上・長者	6か所	0.02～0.03	0.03～0.07	
	(6) 下長	7か所	0.02～0.03	0.04～0.07	
	(7) 上長・豊崎・館	7か所	0.02～0.04	0.05～0.07	
	(8) 三八城・江陽	5か所	0.02～0.03	0.04～0.06	
	(9) 大館・是川	7か所	0.03～0.04	0.03～0.06	
	(10) 市川	5か所	0.02～0.04	0.03～0.07	
	(11) 根城	6か所	0.02～0.04	0.05～0.07	
	(12) 南郷区	7か所	0.03～0.05	0.04～0.07	

数値：最小値～最大値の測定範囲

測定機器：PA-1000 Radi (HORIBA製)

※空間放射線量率の測定は、自然放射線、人口放射線の区別なく測定され、測定時の気象条件や、地表面の状況(土、砂、コンクリート、ブロック等)により変動する。

7 下水汚泥

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故発生以来、東北・関東地方を中心に下水汚泥の中に放射性物質が濃縮されて検出されるという事例が報告された。

八戸市においても、その影響を把握するためにまず平成23年6月に東部終末処理場の下水汚泥の放射性物質濃度(放射性ヨウ素131、放射性セシウム134、放射性セシウム137)を測定したところ、いずれの物質も不検出であった。2回目の7月からは東部終末処理場に、是川住宅団地汚水処理場と市野沢農業集落排水処理施設も加え計3か所から排出される下水汚泥を対象とし、平成24年11月までに7回の測定を実施した。

測定結果は、2回目の測定において、東部終末処理場でセシウム137が僅かに検出されたほかは、全ての処理場でいずれの物質も不検出だった。

なお、検出された東部終末処理場のセシウム137は検出下限値13Bq/kgに対し14Bq/kgと測定されたもの

で、これは農林水産省が発表している放射性物質が含まれる下水汚泥等を肥料原料として利用する際の基準200Bq/kgと比較し、下回っていることから、汚泥肥料の原料としての活用については、これまでと同様に有効利用が可能であった。

8 水道

原稿提供：八戸圏域水道企業団

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、膨大な放射性物質が環境中に放出され、周辺環境へ甚大な影響を与えるに至った。特に、福島県・茨城県・栃木県・千葉県・東京都の5都県20事業者の水道水から暫定規制値(当時)を超える放射性ヨウ素が検出されたことで摂取制限を実施する事態にまで及んだ。さらには、市民が安全な飲料水を確保するために市販のペットボトル水が店頭から姿を消し、水道水の信頼性・安全性を大きく揺るがした。

企業団においては、事故発生当初、放射性物質の測定可能な検査機関が限定され、その監視体制の構築に非常に苦慮した。しかし、平成23年3月25日から青森県原子力センターによって県内8浄水場の浄水のモニタリングが実施され、企業団の主幹浄水場である白山浄水場(馬淵川・新井田川表流水)の浄水が検査対象の一つとされた。また、企業団独自調査として三島浄水場(浅井戸)の浄水についても、六ヶ所村にある(財)環境科学技術研究所の協力を得て、同じく平成23年3月25日からモニタリングすることとなった。

浄水処理による放射性物質除去に関する知見の非常に乏しい中、放射性物質の定期的な監視を実施してきた。この間に、放射性セシウムの暫定規制値200Bq/kgが平成24年4月1日から基準値として10Bq/kgと大幅に強化されたが、幸いなことに検査開始以降、白山・三島浄水場の両浄水から放射性物質が検出されることは一度もなかった。

一方、白山浄水場での浄水処理によって発生する汚泥(浄水発生土)から放射性セシウムが検出され、その保管場所や管理方法について腐心する状況となった。平成23年12月14日に「放射性物質汚染対処特別措置法施行規則(環境省令第33号)」が公布され、ようやく国によって放射性物質が検出された浄水発生土の取扱いに係る基準が示されたことを受け、それに基づく管理・処分をすることとされた。また、国がセメント協会に対して浄水発生土の安定的な受入れを要請したことに加えて、クリアランスレベル(放射性物質として扱う必要がなく、市場に出回る製品として安全に再利用できる濃度)を下回る浄水発生土については、事故発生前と同様にセメント原料としての処分がなされるようになった。

平成24年4月には、放射性物質に関する専門知識と測定環境を有する八戸工業大学との間で「福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の水環境及び浄水処理への影響評価」と題して2か年計画で共同研究を進めることとした。これは、放射性物質の水環境と浄水処理への影響を評価することで、将来を見据えた継続的な監視の必要性を見極めることを目的としているものである。

9 海水浴場

海水浴場における放射性物質の調査に関して、平成23年6月24日に環境省から「水浴場の放射性物質に関する指針」が出され、八戸市でもその指針に基づき、白浜海水浴場と蕪島海水浴場について、海水中の放射性物質濃度と砂浜の空間放射線量の測定を行った。

平成23年度は開設前の6月29日に白浜海水浴場、7月13日に蕪島海水浴場、開設中の8月5日に両海水浴場において測定を実施した(6月29日の海水中の放射性物質濃度分析については県が実施)。この結果、海水については全地点不検出となり、空間放射線量も周辺芝生付近と同程度であり、異常は認められなかった。

平成24年度については、開設前の5月18日及び開設中の7月24日に両海水浴場で測定を行ったが、海水についてはいずれも不検出で、砂浜の空間放射線量も市内の他地点と変わらず、異常は認められなかった。

また、平成24年6月8日に環境省より新たに示された「水浴場の放射性物質に関する指針」により、放射性セシウムの基準値がセシウム134、137の合計で10Bq/Lに変更された。

①平成23年度水浴場の放射性物質濃度等測定結果一覧

■ 海水の放射性物質濃度

[単位：ベクレル/リットル(Bq/L)]

海水浴場名	採水深	測定日	放射線物質濃度		
			セシウム134	セシウム137	ヨウ素131
白浜海水浴場	表層	6/29	検出されず(下限値：1.2)	検出されず(下限値：0.91)	検出されず(下限値：1.3)
		8/5	検出されず(下限値：1.0)	検出されず(下限値：1.0)	検出されず(下限値：1.0)
蕪島海水浴場	表層	7/13	検出されず(下限値：1.0)	検出されず(下限値：1.0)	検出されず(下限値：0.9)
		8/5	検出されず(下限値：1.0)	検出されず(下限値：1.0)	検出されず(下限値：1.0)

- ・6/29分の白浜海水浴場については青森県による測定結果。
- ・「検出されず」とは1Bq/L程度の検出限界値に満たないことを表す。
- ・測定方法：ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー
- ・参考：「水浴場の放射性物質に関する指針における水浴場の放射性物質に係る水質の目安」
今夏のみに適用される暫定的な値(放射性ヨウ素131 30Bq/L、放射性セシウム134,137の合計50Bq/L)

■ 砂浜の空間放射線量率

[単位：マイクロシーベルト/時間(μSv/h)]

海水浴場名	採水深	測定日	空間放射線量率			
			地上1cm	地上50cm	地上1m	周辺芝生
白浜海水浴場	4地点	6/29	0.05	0.05	0.04~0.05	0.04
		8/5	0.04~0.05	0.04~0.05	0.04~0.05	0.04
蕪島海水浴場	3地点	7/13	0.05~0.06	0.04~0.06	0.04~0.05	0.04
		8/5	0.04~0.05	0.04	0.04~0.05	0.04~0.05

数値：最小値～最大値の測定範囲

測定機器：NaI(Tl)シンチレーションサーベイメータ

②平成24年度水浴場における放射性物質濃度分析等結果一覧

■ 海水の放射性物質濃度

[単位：ベクレル/リットル(Bq/L)]

海水浴場名	採水深	測定日	放射線物質濃度		
			セシウム134	セシウム137	ヨウ素131
白浜海水浴場	表層	5/18	検出されず(下限値：0.83)	検出されず(下限値：0.55)	検出されず(下限値：0.61)
		7/24	検出されず(下限値：0.72)	検出されず(下限値：0.59)	検出されず(下限値：0.88)
蕪島海水浴場	表層	5/18	検出されず(下限値：0.67)	検出されず(下限値：1.0)	検出されず(下限値：1.1)
		7/24	検出されず(下限値：0.67)	検出されず(下限値：0.59)	検出されず(下限値：0.88)

- ・「検出されず」とは1Bq/L程度の検出限界値に満たないことを表す。
- ・測定方法：ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー
- ・参考：「水浴場の放射性物質に関する指針」(放射性セシウム134,137の合計10Bq/L)

■ 砂浜の空間放射線量率

[単位：マイクロシーベルト/時間($\mu\text{Sv/h}$)]

海水浴場名	調査地点	測定日	空間放射線量率		
			地上5cm	地上1m	周辺芝生付近
白浜海水浴場	4地点	5/18	0.04	0.03~0.04	0.03
		7/24	0.04	0.03~0.04	0.03
白浜海水浴場	3地点	5/18	0.04	0.03~0.04	0.04
		7/24	0.03~0.04	0.03~0.04	0.03

数値：最小値～最大値の測定範囲

測定機器：NaI(Tl)シンチレーションサーバイメータ

10 測定器無料貸出し

八戸市では、平成24年2月1日から市民を対象とした空間放射線量測定器の無料貸出しを開始している。貸出しには、社団法人八戸法人会から寄贈を受けた4台と、市が所有している5台のうち2台を使用し、平成24年12月末までに92件の貸出しを行った。この75件には個人への貸出しのほかに、町内会等の団体への貸出しも含まれている。

貸出し終了後には、測定結果についての情報提供を求めているが、現在までに空間線量が高い地点は報告されていない。



11 市民参加型空間放射線量測定会

市では、市民の安全安心を目的として、市民参加型の空間放射線量測定会を行っている。この測定会は市民を対象に、市が使用している放射線測定器についてや、測定方法、放射線に関する基礎知識について説明するほか、実際に測定器を使用し、市民が気になる場所を測定してもらうという企画である。

平成23年度は、平成24年1月19日～23日の5日間に15か所の公園で実施し、延べ212名の参加があった。

測定結果については別表1のとおりである。

平成24年度は6月～10月の第4土曜日に実施し、その結果、全地点で問題となるような高い値は検出されず、異常は認められなかった。



■ 平成23年度市民参加型空間放射線量測定会結果一覧

[単位：マイクロシーベルト/時間($\mu\text{Sv/h}$)]

測定日	調査地点	参加人数	空間放射線量率		市庁舎前(参考)
			地上5cm	地上1m	
平成24年1月19日	(1) 新井田公園	11人	0.03~0.08	0.03~0.06	0.02
	(2) ちぐさ公園	20人	0.03~0.07	0.03~0.05	
	(3) 是川中央公園	13人	0.03~0.06	0.03~0.05	
平成24年1月20日	(4) 長根公園	4人	0.03~0.08	0.02~0.05	0.02
	(5) 多賀台中央公園	18人	0.02~0.05	0.02~0.04	
	(6) 八太郎ヶ丘公園	26人	0.02~0.10	0.02~0.04	
平成24年1月21日	(7) 白山台公園	15人	0.02~0.09	0.02~0.07	0.03
	(8) 類家中央5号公園	13人	0.03~0.06	0.03~0.05	
	(9) 南部山公園	11人	0.02~0.08	0.02~0.07	

測定日	調査地点	参加人数	空間放射線量率		市庁舎前（参考）
			地上 5cm	地上 1m	
平成24年1月22日	(10) 湊第2号公園	16人	0.04~0.10	0.03~0.05	0.02
	(11) 日の出公園	9人	0.02~0.04	0.02~0.03	
	(12) カッコウの森	6人	0.03~0.04	0.02~0.04	
平成24年1月23日	(13) 東運動公園	22人	0.03~0.08	0.03~0.06	0.02
	(14) 湊高台五丁目公園	12人	0.02~0.06	0.02~0.05	
	(15) 岬台中央公園	16人	0.02~0.06	0.03~0.05	

数値：最小値～最大値の測定範囲

測定機器：PA-1000 Radi(HORIBA製)

※空間放射線量率の測定は、自然放射線、人口放射線の区別なく測定され、測定時の気象条件や、地表面の状況(土、砂、コンクリート、ブロック等)により変動する。